

情報公開文書

研究の名称	胆嚢癌診断におけるEUS-FNAの有用性の検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院第三内科教授・安田一郎
研究の概要	<p>【研究対象者】 2018年4月1日から2025年3月31日の間に胆嚢癌に対し内視鏡検査を施行した症例です。</p> <p>【研究の目的・意義】 画像診断の進歩により、胆嚢癌の画像診断能は向上しつつありますが、術前、術後および切除不能例に対する全身化学療法や遺伝子パネル検査が広く行われるようになった現状では、病理学的診断を行うことが適切な治療には必須です。 胆嚢癌の病理診断においては、経乳頭的胆嚢ドレナージにて採取した胆嚢胆汁の細胞診が行われていますが、その感度は十分とは言えず、ERCP後膵炎など重篤な偶発症の発症も懸念されます。また細胞診のみでは遺伝子パネル検査に提出することも不可能な点も欠点として上げられます。 一方、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)は、特に膵腫瘍に対する組織診断法として確立されていますが、胆嚢を穿刺することは胆汁漏出などの合併症を来す可能性が危惧されるため、積極的に行わない施設が多いです。しかし、腫瘍を形成している症例や、肝床浸潤を伴う症例においては安全にEUS-FNAを施行でき、多くの組織量を採取できる可能性があると考えられます。この研究の結果をもとに、より侵襲が低く、有効性の高い胆嚢癌診断の方法を検討することができると考えられます</p> <p>【研究の方法】 当院で行った胆嚢癌に対するEUS-FNAを詳細に分析し、その診断能と安全性を評価します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2025年3月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 結果の如何に関わらず、研究成果は公表し、主な公表論文は英文誌に投稿します。この際に個人のプライバシー保護には十分な注意を払って、個人の特定につながる情報は公表しません。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	胆嚢癌に対するEUS-FNAの診断能及び、年齢、性別、使用内視鏡、使用デバイス、穿刺部位、診断法別の最終診断能、手技関連偶発症発生率、治療後経過、その他の診断法との使い分けなど(他機関への提供：無し)
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報

	及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：富山大学附属病院 第三内科 教授 安田一朗
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7301</p> <p>FAX 076-434-5027</p> <p>E-mail jun21029@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 富山大学附属病院 第三内科 医員 松野 潤</p>